



## 今月の話題

- 読者の皆様へ
- トンガ沖で発生した大規模な海底火山噴火に伴う地震・津波による被害に対するお見舞いメッセージ
- 2020年・2021年度国際地震工学研修グローバル地震観測コース開講
- 発表会にて最優秀発表賞を受賞
- 佐竹教授によるIISEEセミナー
- 関博士によるオンラインIISEEセミナー
- 林田主任研究員によるIISEEオンラインセミナー(2月4日)
- 北主任研究員による論文が2021年12月21日付けでNature Communicationsに掲載

## 読者の皆様へ

国際地震工学センター センター長 小豆畑 達哉

新年を迎え、皆さまとご家族、ご同僚の方々には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2020年3月11日に、WHOにより、COVID-19はパンデミックの状態にあるとの見解が示されてから、はや2年が過ぎ去ろうとしています。この間、国際地震工学研修も、COVID-19の影響を大きく被りました。しかしながら、多くの若手研究者や技術者からの国際地震工学研修に対する熱意を受け、レギュラーコースについては、昨年も、2020-2021年コースを継続して実施することができました。2021-2022年のレギュラーコースも、現在、12カ国から19名の研修生を受け入れ、研修を進めております。



国際地震工学センター  
小豆畑 達哉

IISEEでは、レギュラーコースの他に、現在、二つの短期研修コース、すなわち、中南米地震工学コースとグローバル地震観測コースを設けております。これら二つの短期研修は、2020年度は延期せざるを得ませんでした。2021年度は、オンライン研修とすることで、これら短期研修の実施を可能としました。ただし、中南米地震工学研修については、中南米諸国と日本との時差の関係から、リアルタイムで研修を行うことはできず、オンデマンドのビデオ教材視聴と早朝のQ&Aセッションを組み合わせた新たな研修方式を導入することで研修を行いました。7カ国から12名の研修生が参加し、既に昨年12月に全日程を終了しております。

グローバル地震観測研修については、本年1月11日に開始したところで、現在、8カ国から10名の研修生が研修に参加しているところです。こちらの方は、

## 研修データベース

IISENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

参加国との時差の問題は、15時からの開始とすることで対処し、現在、リアルタイムで研修を行っております。

以上のように、コロナ禍の大変厳しい状況下にあっても、研修参加者からの熱意に応えるべく研修を継続して実施できているのも、多くの方々のご支援とご理解があってこそ、と強く実感しております。ここに改めて御礼申し上げます。

なお、次期通年研修の対象国は、アルジェリア、ブータン、コモロ、エジプト、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、フィリピン、タイ、東ティモール、及び、バヌアツであると聞いております。おそらく、JICAと各国の政府機関は、1月中旬にそれぞれの国でGIを配布すると思われます。もし、GIを手に入れましたら、あなたの周りの若手研究者や技術者に本研修への応募を奨めてみてください。

昨年同様のご支援をよろしくお願い致します。質問やリクエストについては、[iisee@kenken.go.jp](mailto:iisee@kenken.go.jp)にお送りください。

## トンガ沖で発生した大規模な海底火山噴火に伴う地震・津波による被害に対するお見舞いメッセージ

国際地震工学センター センター長 小豆畑 達哉

この度、火山島フンガトンガ・フンガハアパイの噴火と、それに伴う地震や津波及び火山灰により、トンガ王国で大きな被害が発生しました。このような被害の報に接し、大変、心を痛めております。被災された同国の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

さらには、火山噴火に関連する大気・海洋波動現象による津波被害がペルー等の遠地にも及んでいると報じられております。このような甚大なる自然の猛威に晒され被災された方々に対しても、お見舞い申し上げたいと思います。

幸いにも、トンガにて現コースにリモートで研修に参加していた研修員と前コースに参加した研修員は無事であることが確認できました。

同国及び被災地域における出来るだけ早期の復旧を願っております。

## 2020年・2021年度国際地震工学グローバル地震観測コース開講

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

IISEEでは、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、2020年度と2021年度のグローバル地震観測コースを2022年1月11日から完全リモートで実施しています。今年度は、8ヶ国(ブータン、エジプト、インド、イラン、ケニア、ネパール、フィリピン、ウガンダ)から、10名の研修生が参加しています。

## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

オリエンテーションでは、小豆畑センター長より挨拶とIISEEの研修の説明がありました。このコースは、核実験探知識別が可能な人材を育成することを目的として、包括的核実験禁止条約機関準備委員会(CTBTO)、外務省(MOFA)、国際協力機構(JICA)、気象庁(JMA)、その他関係機関の協力により、1995(平成7)年度から実施されています。

これまでの研修修了者は、78ヶ国から270名になりました。研修生は、グローバル地震観測に関する知識や高度な地震解析技術を習得するため、積極的に取り組んでおり、学んだ知識は自国の地震防災に役立つことも期待されます。3月4日までの短い研修期間ですが、この研修で習得した知識を今後の業務に生かしていただくことを願っています。

## 発表会にて最優秀発表賞を受賞

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

ニュースレター第200号(2021-12-22発行)の「政策研究院大学での防災政策に関する講義」にあります「最優秀発表賞」が学生及び教員の投票により、3名が選ばれ、その発表が12月27日にありました。

この度、3名のうちの1名として、栄誉ある賞を受賞したのはフィリピンからの国際地震工学研修生で地震学コース(Sコース)のトムさんでした。

これからも研究と更なる発表に期待いたします。トムさん、おめでとうございます。



最優秀発表賞を受賞した、フィリピンのトムさん(地震学コース)

## 佐竹教授による IISEE セミナー

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎

12月20日(月)に佐竹教授(東京大学地震研究所所長)による遠隔 IISEE セミナーを開催しました。

このセミナーでは佐竹先生が2011年東北沖地震による津波に関して、10年間で明らかになった研究成果をご紹介されました。

日付/時間:12月20日(月)10:00-11:00(日本時間)

演題:Ten Years from Tohoku Earthquake and Tsunami(Zoom)

講師:佐竹 健治 教授(東京大学地震研究所所長)

リアルタイムでのセミナー参加者60名程度(帰国研修員:26名、現研修員12



名)あり、海外からは下記の国からの参加がありました。

Algeria、Azerbaijan、Colombia、Costa Rica、Dominican Republic、Ecuador、EL Salvador、Guatemala、Indonesia、Iran、Malaysia、Mexico、Mongolia、Myanmar、Nepal、Peru、Philippines、Solomon\_Islands、Thai、Tonga

リアルタイムで参加できなかった方に対してはオンデマンドで配信し、

45名程度の参加がありました。中南米からは日曜日の

夜にも関わらず、帰国研修員が積極的に参加し、活発に議論が行いました。



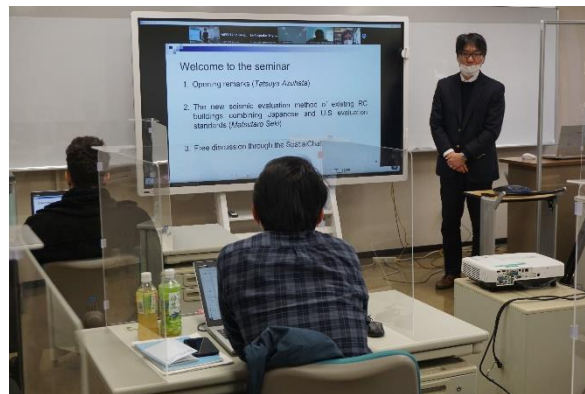
建築研究所から参加した研修生

## 関博士によるオンライン IISEE セミナー

国際地震工学センター センター長 小豆畑 達哉



楽しむのは今です



小豆畑センター長による冒頭のあいさつ

12月28日に、建築研究所の特別客員研究員である関松太郎博士を講師としたオンライン IISEE セミナーを実施しました。

関博士には、”The new seismic evaluation method of existing RC buildings combining Japanese and U.S evaluation standards”と題する講義を行って頂きました。

日本の耐震診断基準では、既

存建築物について、IS 値という指標を算出し、その耐震性能を評価しています。IS は Seismic Index of Structure(構造耐震指標)の略で、この IS 値によって耐震補強を行っていくべき優先順位等を決められるため、国等が耐震補強対策を進めていく上で、大変、有益な情報となり得ます。関博士の講義は、この IS 値の意味を、米国の耐震基準や既存建築物の耐震診断の基準に照らし合わせて見直してみるものでした。

これにより、IS 値の概念を使った評価方法が日本以外の国々でも適用可能であることが理解されたと思います。関博士の講義の後、自由に質疑応答が行えるよう、Spatial Chat による議論の機会を設けました。

オンラインのセミナーは、昨年度から実施しています。今回は、12カ国から17名の帰国研修生が参加しました。IISEE では、今後もこのようなオンラインのセミ

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

[iiseenews@kenken.go.jp](mailto:iiseenews@kenken.go.jp)  
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは  
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

ナーを実施して参りたいと考えておりますので、皆さんの参加もお待ちしております。

## 林田主任研究員による IISEE オンラインセミナー(2月4日)

国際地震工学センター 主任研究員 林田 拓己

2月4日にオンラインの IISEE セミナーを開催いたします。

IISEE の林田主任研究員が、微動アレイ記録を用いた Vs30(地表 30m の平均 S 波速度)の新しい推定方法について講演をします。

セミナーへの参加方法は、地震学・地震工学コースの研修修了生宛に1月4日にEメールでお伝えしております。

リアルタイムで参加出来ない場合には、後日録画したビデオを視聴することも可能です。

このセミナー情報を、皆様の職場の同僚や若手研究者の方々にもお知らせいただけますと幸いです。

セミナーで皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日時: 2月4日(金)16:45-18:30(日本時間)

内容:

16:45-17:00 最近の IISEE の活動紹介 (Zoom)

17:00-18:00 「微動アレイ記録を用いた新しい Vs30 の推定手法」(林田主任研究員) (Zoom)

18:00-18:30 議論 (Spatial Chat)

講師: 林田 拓己(国際地震工学センター 主任研究員)

開催者: 建築研究所 国際地震工学センター

## 北主任研究員による論文が 2021 年 12 月 21 日付けで Nature communications に掲載

国際地震工学センター 主任研究員 北 佐枝子

北主任研究員は、Nature communications に、紀伊半島にて海洋性プレート内部地震(スラブ内地震)のスロースリップとの連動性の原因に関する研究成果を発表しました。17年間の基盤地震観測網のデータを精査し、半年に一回発生するスロースリップの発生は海洋性プレートからの水もしくは流体圧の伝搬により発生することを示し、南海トラフ地震の想定震源域の固着域の時空間変化の把握に貢献する成果も挙げました。ご興味のある方は建研 HP プレースリリース資料

(<https://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/press/2021/535.pdf>)をご覧ください。